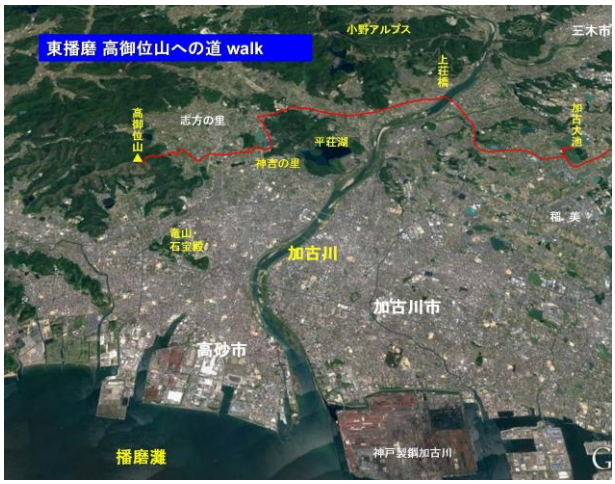
2017 walk
10

【　５月中旬 西神戸・播磨 Country walk　Photo アルバム　】

梅雨入り前「麦秋」の播州路　播磨富士「高御位山」へ　2017. 5. 17.

麦秋を迎えた加古川市神吉の里から眺める播磨富士「高御位山」　2017.5.17.



５月の連休も過ぎ、西神戸・東播磨の田園では田に水が入り、田植えの準備が急ピッチ。　田園地帯一帯を黄金色一色にする「麦秋」の里も。梅雨入り前･初夏 西神戸の田園の美しい景色が頭によぎって、久しぶりに東播磨の田園から加古川土手へ行きたくなって原チャリを走らしました。
西神戸神出の集落を抜け、稲美に入ると眼前に広がる田園は黄金色一色の「麦秋」。
ビールや麦茶原料となる大麦栽培が盛んになり、田に水を入れる前の大麦収穫の真っ最中。
この収穫が終わらぬと田に水が入らない。
農家は今一番忙しい時期である。
　加古の大池の土手に登ると湖面の向こうに播磨富士「御位山」の美しい姿を見せている。
「高御位山へ登って､久しぶりに 頂上から播磨平野の大展望を眺めてみたいなぁ」と。

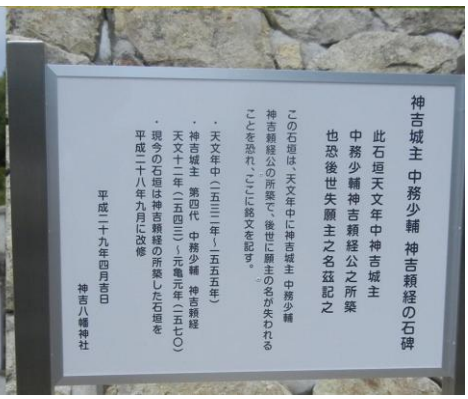
麦秋の東播磨　稲美の里

＜　播磨富士「高御位山」　高さ 304m　＞

播磨平野の加古川下流域では高い山が少なく、高御位山が加古川市・高砂市の最高峰。
頂上では断崖の岩場がせり出し、播磨平野や瀬戸内海を一望できる。逆に播磨灘・東播磨の田園どこからでも、ながめることができる。
頂上には岩場を磐座としていた高御位神社があり、高御位の名前も神座、磐座から転じたと考えられている。
社伝によると、欽明天皇 10 年(549 年)に創建され、祭神は 大己貴命と少彦名命。天津神の命を受け、国造りのためにこの高御位山の磐座に降臨したとされ、地元の人々に守り継がれてきた信仰の山でもある。

稲美　加古大池越しに眺めた高御位山　2017.5.17.

高御位山を眺めながら加古川の上荘橋を西へ渡って、西へ　志方の里へ入る丘陵地を平荘・志方へ。
姫路への裏街道県道 65 号を走るのも久しぶり。　季節の折々　東播磨の田園地帯を訪ねて走る道である。
志方の里　投松の十字路を南へ折れて　高砂への県道 45 号の飯盛山裾を抜け、大きなため池の縁のバイパスに入ると右手に一面黄金色の麦畑が広がり、その奥に高御位山が再度　きれいな姿を現す。
加古川の西岸に広がる神吉の里で、この奥に高御位山の麓が登山口のある志方成井の集落である。



麦秋真っ盛りの加古川市神吉の里　背後に高御位山が顔を見せる　　2017.5.17.

写真の右端に少し見えている小さな丘が宮山と呼ばれ、神吉城跡・神吉八幡神社のある。神吉の里は知っていましたが，いつも通過。神吉にお城があったというのも初めて知りました。

播磨富士と呼ばれる秀麗な姿の高御位山をバックに眼前に広がる田園は黄金色一色。
まったく知らなかった高御位山山麓「麦秋」の景色。黄金色の麦畑のすぐそばの休耕田では蓮華の花盛り。
こちらも　高御位山がバックに。梅雨前のほんのひととき　ラッキーにもこんな素晴らしい初夏の景色が見られました。

2017.5.17.　加古川市神吉の里から　正面に播磨富士「高御位山」

東播磨　加古川西岸神吉の里の休耕田では レンゲが一面に　2017.5.17.

初めてみる高御位山山麓「麦秋」の景色。黄金色の麦畑のすぐそばの休耕田では蓮華の花盛り　2017.5.17.

麦秋の高御位山山麓の田園地帯に広がる麦秋を楽しみながら、田園の中をまっすぐ登山口へ。
登り口のすぐ横の駐車場に原チャリを置いて、頂上からの展望を期待しつつ高御位山の頂上へ。
久しぶりの成井登山口。よく整備された新緑の山腹を約 30 分ほど登れば頂上である。

高御位山の東側の山腹を登る志方成井登山口　2017.5.17.
高御位山の頂上の磐座 高御位神社の参道でもある

樹木の間から登山口に西の田園が見える　2017.5.17.

新緑が美しい志方成井の高御位神社参道登り口からの登山道　頂上の高御位神社への参道でもある
時折　樹木の間から　志方の田園地帯が顔をのぞかせてくれる　2017.5.17.

こんなに良くせいびされていたか? とびっくりするほどよく整備された登山道が頂上まで続く

今は時期ではありませんが、このすぐ横の山腹は笹ユリの群生地
６月の終わりから７月にかけて、花が咲くとこの登山道もハイカーでにぎわう。
登山道はゴツゴツした岩肌むき出しの岩の上になって、まもなく岩盤の上の頂上稜線も近い。でも　まだ　もうひと登り。

城山を背に志方の里全体が眺められる

宮山・飯盛山を背に神吉の里

頂上稜線が近づき、いよいよ岩肌むき出しの岩盤の上を歩く 2017.5.17.

急な岩盤を登る登山道の出口　頂上稜線目前　視界が開ける!!　2017.5.17.

岩肌むき出しの急な道をよじ登ると、空がぽっかり空いて　頂上稜線の岩場が見える。
360 度の展望が楽しめる視界が開ける!!　2017.5.17.

北の参道から頂上稜線のこの岩盤へ飛び出した脇に南に凹型に連なる高御位山稜線の案内図が建ち、頂上縦走路に合流　2017.5.17.

高御位山の山頂部は麓からもよく見える南へ切れ落ちた剥き出しの岩盤の上　絶好の展望台
眼下には　直下凹型に広がる高砂市阿弥陀の里　そして遠く播磨灘まで広がる高砂市の街並が遠望される

高御位山稜線の岩尾根の上にとびだし視界が一機に開ける　　2017.5.17.
山麓からもよく見える頂上部の岩場の崖・広い岩盤の上で　頂上の磐座もすぐ上に

西は姫路　東は神戸須磨海岸まで、播磨の大展望が　眼下に広がる2017.5.17.

播磨灘沿岸の工業地帯遠望　　2017.5.17.

高御位山の山頂部は麓からもよく見える南へ切れ落ちた剥き出しの岩盤の上　　2017.5.17.
眼下直下の高砂市阿弥陀の里　そして遠く播磨灘まで広がる高砂市の街並が遠望
絶好の展望台播磨平野から播磨灘への大パノラマが広がっている。

【西は姫路　東は神戸須磨海岸まで、眼下に広がる播磨の大展望　2017.5.17.】

南西側　家島群島が浮かぶ播磨灘の手前　山並みの向こうに姫路の工業地帯が広がり、広畑の工場群やLNG基地のタンク群が見える

正面の西側　古代からの石切り場　竜山の向こうに高砂市の沿岸

正面東側　左から右端の河口へ東播磨を流れ下る加古川　霞む淡路島・明石海峡の手前　製鉄所の高炉を中心に加古川の工業地帯

南東側　東播磨の沿岸部　一番端に明石海峡に落ちる西六甲の西端の山並みが見える

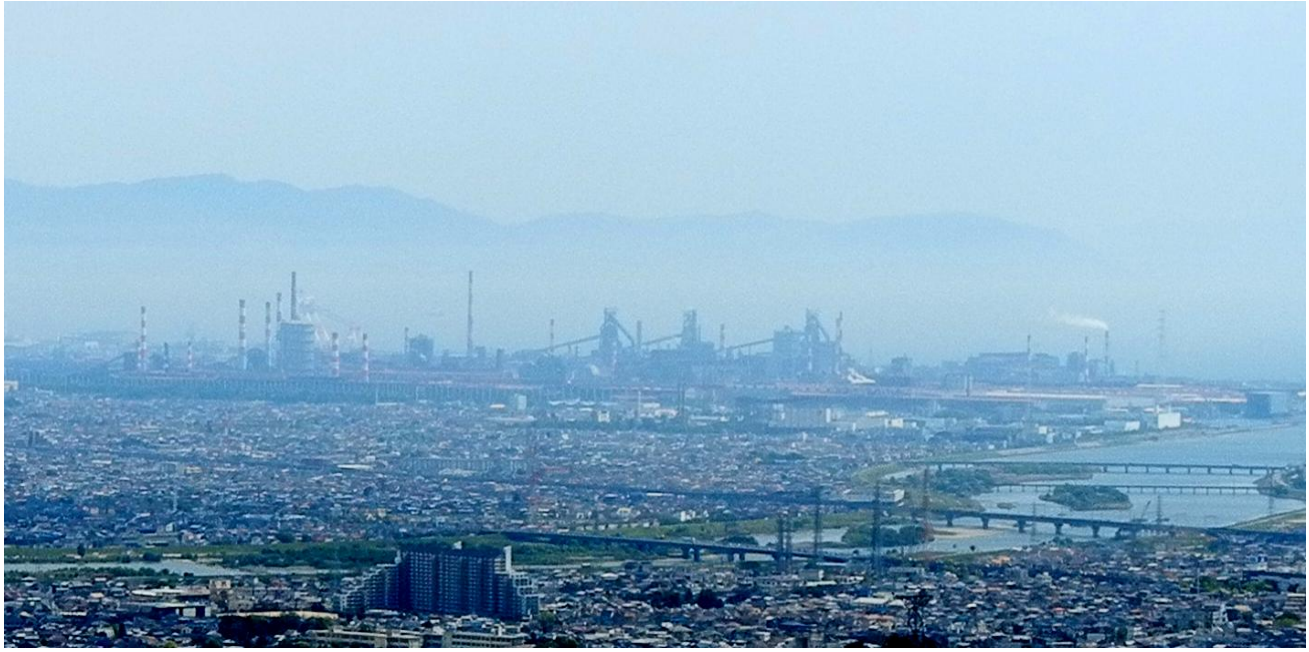
東側: 左手に飯盛山その背後に平荘湖　右手に神吉の里が眺められる

志方広尾の里

東播磨の田園を流れ下る加古川の手前　神吉の里

北側: 高御位山の尾根の北側　正面城山の手前に樹木に隠れて志方の里　背後に小野アルプスの連山が見える

《鉄の風景》　高炉遠望　淡路島を背に加古川河口東岸に神戸製鋼加古川　2017.5.17.



やっぱり眼が行く「鉄の風景　-加古川河口神戸製鋼加古川製鉄所-高炉遠望　」2017.5.17.

東西凹型に広がる高御位山の山並み　正面には高砂市阿弥陀の里から播磨灘まで高砂の街一望　2017.5.17.

この高御位山の南周辺は古代からの石切り場　すぐ南には竜山石・石宝殿生石神社で有名な竜山もすぐそこに。

遠く加古川の高炉と古代から続く竜山石の砕石場竜山が１枚のアングルに
頂上稜線　岩盤上の登山道より
2017.5.17.

展望を楽しんだ後、高御位神社が鎮座する山頂へ　見上げる岩山の崖　頂上までひと登り。

高御位の大神が降臨したという磐座がある岩場の崖の後ろに高御位神社の社殿　2017.5.17.

この高御位山頂上岩場一帯は古代祭祀遺跡で　社殿へ登る階段横に案内板がありました。

高御位山古代祭祀遺跡のご案内

高御位山は、古代より山岳崇拝の聖地として、播磨一円の人々の厚い信仰を集め、
山上の巨岩は神霊の宿る場として、長い歴史の流れの中で、人々は、報恩反始の心もて、その山容を、仰ぎつつ、今日に至っている。

高御位大神御降臨之座址

神社南側の岩場は、今から約千二百年前の大同２年３月21日に、大国主命が、国造りのためにこの岩場におりてこられたと云う言い伝えがある。

古代祭祀遺跡址

前方の岩場一帯は、仏教が日本に伝わってきた以前の弥生時代から古墳時代にかけての
古代人が神をお祭りするための「祭り事」を行った跡であろうと云われている。

祓禊(みそぎ)址

この扇形のくぼみは、古代人が、神にお参りする前に身を清めるための水を溜めるため、
岩をくりぬいて作った穴であろうと云われている。

盃状穴(はいじょうけつ)址

この盃のような形をした小さな穴は、古代人が石のようなもので岩肌をこすりながら
神に祈りを捧げたときに出来た穴であろうと云われている。

御水(みもひ)址

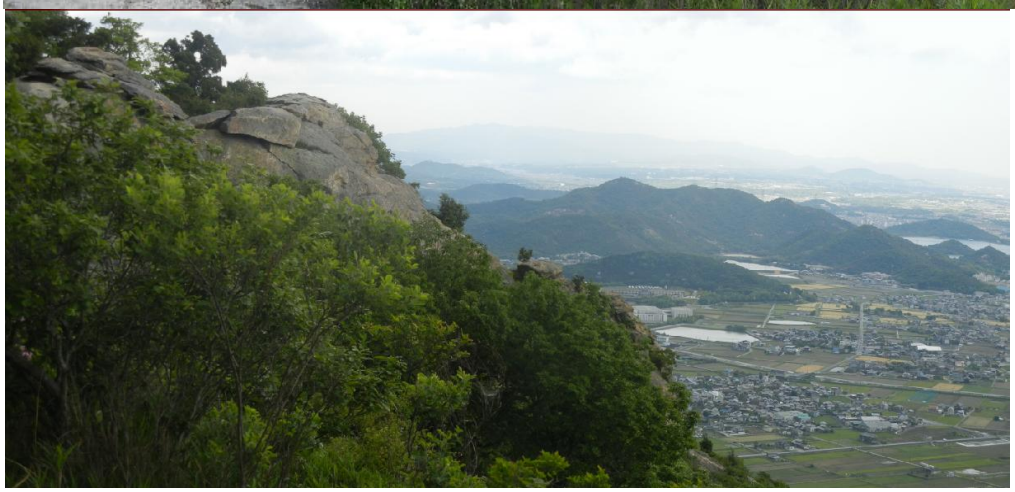
この米粒のような形にくりぬいて作った穴は、古代人が神にお供えする水を溜めるために岩をくりぬいて作った穴であろうと云われている。

平成十六年十二月二十日

頂上の岩場崖　西の奥　高御位の大神が降臨したという磐座

頂上の岩場から登ってきた東のほうを眺める　神吉の黄金色の麦畑も点々と見える　2017.5.17.

頂上の岩場の縁に立ち、崖を見下ろすと垂直に落ち込んでいて、やっぱりすごみがある。
標高は低いが、この高御位山が信仰の山になりえたことがよくわかる。



稜線縦走路を少し西へ行って、西から頂上周辺を眺める
2017.5.17.

頂上の崖越しに山の東の登り口側　飯盛山を背に加古川市神吉の里　志方横大路の田園地帯が見える。
今日は縦走しないで　もと来た志方成井の登り口に引き返すので、ここから頂上へ戻る。

頂上の高御位神社を通って縦走路を東へ、北の成井登山口への分岐への岩場の東端へ戻る

　ほどなく、登り口の麓の田園地帯がかいま見えるようになり、志方成井の里の登り口にもとってきました。
いつもの気まぐれ風来坊の原チャリを走らせての東播磨の田園 walk。
爽快感いっぱいで「麦秋」の神吉の里を抜けて家路へ。振り返ると秀麗な高御位山がが帰りを見送ってくれる。

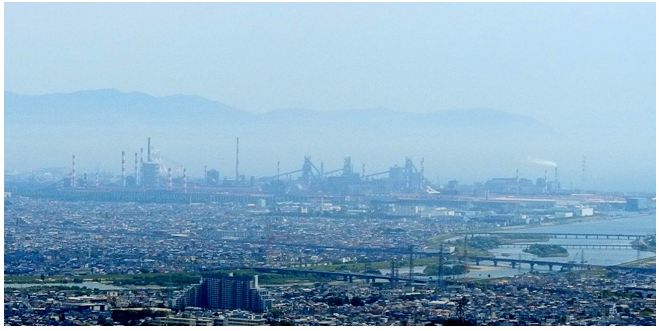
東播磨　麦秋の播磨富士「高御位山」walk。
いつもの気まぐれ　風来坊 行き当たりばったりの walk でしたが、梅雨入り前の素晴らしい東播磨田園の景色に出会えました。

◎　訪れた高御位神社参道登り口近くの神吉の里でも「麦秋」真っ盛り。
　　播磨富士と呼ばれる秀麗な姿の高御位山をバックに眼前に広がる田園は黄金色一色。まったく知らなかった高御位山山麓「麦秋」。思わずラッキーと。

◎　久しぶりに登った新緑の登山道が見違えるようによく整備されていてびっくり。また、登り口から 1 時間弱で登った頂上からの東播磨の田園地帯から播磨灘沿岸の大展望も期待にたがわず。

◎　また、やっぱり探す「鉄の風景」。久しぶりに高炉の風景に出会えたのもうれしい。
それも　播磨灘にぼんやり浮かぶ淡路島の山々を背景に　高炉を中心とした製鉄所が霞の中に浮かぶ素晴らしい景色でした。

播磨富士「高御位山」を背に麦秋を迎えた山麓の神吉・志方の里　2017.5.17.



やっぱり眼が行く「鉄の風景　-加古川河口神戸製鋼加古川製鉄所-高炉遠望　」
高御位山山頂からの 360 度の眺望 2017.5.17.

無理せず元気に!!　これからの梅雨を乗り切りましょう

いつもの気まぐれ風来坊の原チャリ walk。
梅雨入り前の初夏　「東播磨田園の麦秋」の新しいページが加わったと。
「今日は早く帰って ぐいとビー.ルを飲みたい」と思い浮かべつつ、麦秋の高御位山山麓を離れる。
梅雨入り前の気まぐれな天候の 2017.5.17.午後
麦秋の東播磨田園地帯を走り抜けながら

Mutsu Nakanishi